

2019年5月30日
認知症施策事業推進委員会
三澤 多真子

認知症ケアパス作成のための資料

【認知症ケアパス作成のための手引き】

1. 認知症ケアパスとは

認知症ケアパスは、日常生活圏域において、認知症を有する高齢者がどのような状態にあっても対応できるサービス基盤を構築し、的確なコーディネートがなされる体制をシステム化する地域環境を具現化するツールである。

「認知症の人の状態に応じた適切なサービス提供の流れ」と定義する。

2. 基本目標

認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けることができる社会の実現。

→そのための7つの視点のうちの 하나가「標準的な認知症ケアパスの作成・普及」。

3. 対象

認知症の人やその家族

4. 内容・key word

- ・医療や介護サービスへのアクセス方法。
- ・受けられる支援内容。
- ・進行状況に合わせていつ、どこで、どのような医療・介護サービスを受けられるか。
- ・開始は認知症と疑われる症状が発生したときから。
- ・施設入所を前提とせず、できる限り住み慣れた地域で暮らし続ける。

→認知症の人の生活機能障害の進行にあわせて、いつ、どこで、どの様な医療・介護サービスを受ければよいのか、具体的な機関名やケア内容が認知症の人とその家族に提示されるようにする。

5. 認知症ケアパス作成に際して

- ・地域の高齢者の状態像を把握する。
- ・地域の社会資源の利用状況を把握する。
- ・認知症の人の生活機能障害にあわせた社会資源の整理。

→有効に機能させるためには、地域の高齢者の状態像に適した社会資源の整備と適切なケアマネジメントの2つが必要。

社会資源の整備においては、地域に住む高齢者の状態像やサービス利用状況を把握し、将来の必要見込量を推計した上で、どういう生活機能障害を持った認知症の人に、どこで、どういったサービスを提供するのかといった道筋を示す「認知症ケアパス構想」を検討する必要がある。

・「気づきシート」、「社会資源シート」の活用。

【統計データ】

認知症全国有病率 65歳以上の15% (440万人)。→2025年には20%

MCI全国有病率 65歳以上の13% (380万人)。

年代別有病率 65-69歳 2.2%

70-74歳 4.9%

75-79歳 10.9%

80-84歳 24.4%

85歳以上 55.5%

小金井市人口12万人。

内65歳以上26,000人。

推定認知症人口

$26,000 \text{ 人} \times 20\% = 5,200 \text{ 人}$

推定MCI人口

$26,000 \text{ 人} \times 15\% = 3,900 \text{ 人}$

計

$5,200 + 3,900 = 9,100 \text{ 人} \approx 10,000 \text{ 人}$